

2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7

伊地知文庫
文庫20
360
35

技桑抄集

三十



文庫20
360
35

扶桑拾葉集卷第二十

目錄

娘といたゞ辞

肥後少將氏悼了辞

惺窩文集序

於長嘯亭催元宴和歌序

奉納苔廟詩歌序

報源光圓詩歌序

又

藤原幸家

藤原為景

同

同

同

同

同

同

九月十三夜和歌序

日光山法義八謙記

仙洞御色紙記

八瀨詞

涇源遊記

成元館別記

圓東漫道記

示乃相公以之爲通村

友と之と之和歌序

同 同 同 同 同 同 同 同 同

源 通 村

亨治無量祥音記

同

扶桑拾葉集卷第三十

參議從三位兼行右近衛權中將源朝臣光圓編集

狼狽之詞



藤原幸家

こはれすよゆす——禮りふと努ゆてども・生ててく
けり娘のあくよ・わにてかく・枝・雪やのゆうよ・ほし
あはとアラ照月・すま小・雲・れりもほむか
うけくらむれり・わかきしゆ・かり・公の風すか
らひよや・波の河り・浮みゆ・すれどり・りあくよ・
はらかのとほ夜の度・よほを何で・貞潔院殿物か
もすよほきく・これ不ともりりのと細いすよ

少より佛より始ひかと。わざふのまのねを
めがりうる思ひゆきと。食ひをれどにら。雪の
にまくす。けづ。さあすゆの葉。今辛す
はうすすゆれし思ひゆれは。めり。日暮里
けづゆよかうむわづれり。めにかまぬ。まこと
の飯城やりて。南を阿深庵佛と。うらよとくと
と河をもじより。わざれかみのまごの
く。宿のまのまのまよ。ほまく。宿とよと送り

けづぬ

かぎよりのれおとづぬ人よ

うりにえののうりうる

いもくひよやおおきれぬりこのよと
いれぬよむくこらやれ
ち
ゑりうこれせのはうれ後の君と
みれかのよよんと。小
見くし。そと。そと。またの雲が川
うく月とまのわく。すくらん
誰としけのあくにすくらん
のくわく。あく。あく。よ
わくにすくねのわく。すくらんのまの
びとくのよと。かと。わく
けくとくにすくのよと

つ

ぬ

已復折時
如見其辭

苏原书景

もと下へおふせ日ひまくわゆり。其むとの二月後
後よしを。せうに高ちせはまきし。かく大坂東
じかくくまくかれる。徳田通の守。守。不亮の薬
酒に捨てゆく。あらえ。急半竟をつるやけ。ゆく
事に勇の二派へ。はしきまきとう。すがに。は
みーに廊廟の材と。大樹來ふ。かまくぬ
かくと。諸葛武侯。うまく。じき。はあまと
のぬ。林よなき。か。大か。あ。玉の。早よ。封せら
被へ。わくにや。ば。四。身。そら。ハ。源原と。すす。
うさく。お。あ。連。徳。因。源。わく。業。は。中。り。つう
もやれ。そく。ちと。之の年。寛。西の旗。からと。あ

うき。は。く。し。か。は。抽。貴。と。そ。ゆ。一。母。乃。は。便
え。と。う。そ。心。と。と。身。う。の文。よ。せ。う。う。と。見。考。の
説。と。あ。い。常。よ。は。そ。と。う。一。四。書。立。の。經。と。と
く。う。一。女。改。り。て。一。一。た。ま。れ。改。り。て。不。し。の。れ
一。太。牛。よ。と。わ。か。か。ひ。く。一。生。父。先。生。は。も。と
か。き。う。一。言。考。の。す。と。ま。ま。あ。げ。も。か。あ。一。年。三。月
に。れ。ま。し。く。と。朝。か。夕。か。の。枕。ふ。か。め。と。も。も
よ。詞。う。か。に。せ。父。の。よ。と。う。ふ。も。う。り。く。み。の。荷。ま。ま
も。体。ふ。よ。あ。う。と。も。う。り。う。先。生。よ。と。か。て。ほ。

大年よりかやまなみ車のわらはるるにけよ
かれよあぬよもかれよめくの處、海うらわあゆ
ふくしたし。是といへりかいとすた。夏天に山
かきかきの山のやれりもひそむをあんやいじくせ
薦よのやうてがくらむか。松のうらと見ゆ。一木を
あすれ玉ゆ。時、人の衣裳あまくまく水
しまやの木す。木はくらむ。木はくらむと
くはあくとひくはく。木はくらむと給。木の
木はくらむ。りやうゆるあくとけり。中はくらむ。妙
香有。一。良種とうすまたたきひくす。青御。雲へ
とうきくさくまし。ひるかくさくまし。

よもやかは

そくらくすりのうもくねくにむや
ちくくととととととまのい體
ちくくりれく。かくまくく。體くくと
く。せととととととととととととととととととと
侍くはく。一。毛法うての。日法。毛法
色。毛とての。とととととととととととととととと
河くね。今とかくはは。初。毛とととととととと
葉れい。一。やくく。ととととと
ゆく。とくとく。雲の色ゆく。いととと
ゆく。とくとく。岩。に。岩。に。

嘆もきり。まほほとぞ思ひゆ
とて見ゆす所ぬけしも
せり。さとす言古法手のしもと。やまと奇
ありにこかうは、きわむもし早か。物とて
河とくふりとくへくえをもかがし。せれう友濃
集とくと。此れ序の頃いとね。すけよ河
りとある友とらのとの素。又ハあくと詩もかめ記
筆のとらひまそし。うきようきし。その
人すくねるよあく。うきよあく。上よ延
徳くじりかう。先薄とよよもて思ひとれど。のう
今もかくして歎歎よつはくというハせん。じきい

まよ。仲尾の相のうとくか。一禮まや及くま
ひく。おうに廊廟の材とが。おれづれ
高に君の八海のわよ三絃の
川より入ゆ。海もくもて
まてあく。すもくか。お士方
ゆくや三月のうとくぬよれ
すとくもくか。おうに山もくれうくう
せう

春闌別恨生

花落夢魂驚

月餚燕公辭

星流諸葛營

遺言憂國事

至直感精誠

學_ア武_ラ衡_ク機_ク察_ス

萬邦_ク馳_シ逸_ク氣_ク

蘭_ク廟_ク逐_シ餘_ク臭_ク

濃_ク情_ク江_ク海_ク淺_ク

愁_ク緒_ク無_ク由_ク解_ク

惺窩文集序

同

論_ア文_ラ理_ク義_ク明_ス

千歲_ク仰_ク雄_ク名_ク

雞_ク壇_ク尋_ク舊_ク盟_ク

篤_ク惠_ク士_ク山_ク輕_ク

歸_ク鴻_ク聊_ク寄_ク聲_ク

通_クの_ク氣_クも_クれ_クと_クは_クわ_クり_ク・氣_クも_クと_クと_クを_クに
く_クと_クよ_クん_クき_クも_クれ_クこ_クあ_クぬ_クと_クい_クよ_ク・心_クと_ク撫_ク
の_ク浦_ク浪_クよ_クお_クて_ク・う_クい_クや_クよ_クと_ク・塵_ク俗_クま_ク・今_ク
み_クむ_クと_クと_クい_ク・う_クれ_ク・せ_クの_クと_ク・も_クす_クか_クて_ク・こ_ク
は_クき_クと_ク・聞_クう_クの_ク半_クの_ク人_クの_クや_クほ_クと_ク・う_クゆ_ク
み_クゆ_クも_クに_クら_クよ_クく_ク人_クの_クは_クせ_クま_ク人_クま_クう_クを_クだ_ク
か_クと_クし_クに_クか_クと_クう_ク・為_ク東_クい_クけ_クよ_クと_クれ_ク
ま_ク小_クま_クよ_クあ_クた_ク・之_クね_ク裡_クそ_ク・と_クし_クま_クう_ク・は_クか_ク
と_ク産_クの_クや_クか_クと_クう_ク・ち_クれ_ク・ゆ_クみ_クと_ク一_クき_クの_ク中_ク
ま_クか_クす_クあ_クま_クう_ク・り_クに_クや_クと_クり_クし_ク絆_クによ_クあ_クて_ク

四の壁いかゞむと。かはとからまつたことは。
うる堵のうそ一火しかひけり。ゆぬとばおひ
引くもぬとあへ程よ。かゞて相上人竹の
林にえられり。ふもれ掉きててんぐ
うゆ。ちやくはの海士の於小舟のねどがあゆ
とくとくがふれせば。ぬま。玄同は情有て
書と諺。詩とうじて。我をうち詔よ詠く。
度もあらゆり。うきよ。河ね
わをそひよ。すいぬ。とすれりまき。たまにゆき
へやうり。薬とく埋火乃よもじて。まよよ
年月と送り。うなだ言つひ。後ハ切まし

サクの塙もと。とぬかて。はまのとくのとくを
りぬみ。しゆく。考み。とみかとす。行から
め。うく。ゆく。名ある跡のを。かく。うか
とは。うきに。乃。喪と。集と。やう。ほく。らく。
是は。え。お。ま。い。引水の。も。か。の。半。ま。か。
じを。う。か。う。あ。た。う。か。ま。河。ま。ち。り。
いちの。う。か。う。あ。た。う。か。ま。河。ま。ち。り。
さす。う。か。う。あ。た。う。か。ま。河。ま。ち。り。
け。う。か。う。あ。た。う。か。ま。河。ま。ち。り。
う。か。う。あ。た。う。か。ま。河。ま。ち。り。
ま。い。ま。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。

まとうにいがくせんかの西山おゆの入道よみ板
うしまく。公軌とてじなほきくわらそて、りゆせふ
ちくもんとす。さておまく五巻。若はとくめ
涇窓文集とよゆきす。あくまくらはざの。
玄月廿日。ひよといよ先生が五画の筆をよしむ。
いそうちれ源あくして。かのきくとゆく。さく
のけふ物。

於長嘯亭雅花宴和歌序

同

され三春の中より。やどとの月はとくしゆす
やまと。木の花やくにほづ。うい草の緑

あくのとくやまく。東山の夜とまらて。毛馬よ
うとくんまとね。りく林間のあくせれ
のりく。かく小車れふ。みゆ城のよし。安太原
や小塙の山。あくそ。とゆせはく。むくうつは
人なり。是をうれふ。わきよ。や。花宴とく
若もる。末の下庵。化まお。山もかく。とくう。は
くを。あくも。うらう。それかく。とく。ふ
とく。うらう。とく。はく。おとく。おとく。ふ
こへらを。い。はく。おとく。とく。おとく。おとく
う。免五首の歌。あく。とく。ル。例の。とく。あ
て。とく。う。まく。おとく。とく。赤人の。う。きく

大もやへりおひしゆくやかて人ノ用にひそひ年
よ移れどこその事ふとみうきもれどもい
けくわく。かの木のともすくしまとし。廿日
をまは二日もかくやりん。まをあくとれはる
みじかくまきとよとく。まねくとし。いとま
みじかくまきとよとく。まねくとし。いとま
のりくほを遙よなむちめく。かとみのるらう村
く。白くらきくひかせ。えだとせとばとせと
中とせとせと。うるよもすりは。心痛の枚うれ
あらまとうて。あらまとうて。うれとせとせと
生あひうれく。用心のひうれとせとせとせと
せとせとせとせとせとせとせとせとせと

河まに風吹もらず。えとぞよみうはとばを
えれし。やとれく夜の裡とて。かくい人の跡と
わく。もとよ雪のきらめく。あくはまえ。と
思ふと。いとく。とくとくと。とくとくと。
てはふがばぬき。うむよのりでわいとおうか
うむとのまうんと。うむよのりでわいとおうか
あは木かく。とくからううと。うれきとせ
かく。とくかく。かく。よのほととく
をゆく。あくわよひて。情をうと。編夷。いと
うと。かく。とく。かく。かく。ゆきの角を

チ後まふて董長の奇譚せしむらをも
夢の匂いとのほつ考よひて・山はすとほ
ナカナ洞多よて・湖山の光・しきはよお
み程らかく・とある勝持寺の花うゆわく
見侍す・毛とね火とれどもよ候からず
猪の中やし・西人のめゆたま・猪をばよ木も
ゆりてうきむせよかと・花乃うねせんじも
りい・首もりく・変よあを商を刀歌の譚を
うれき・とほうりまよ・まくともせんじまのく
月き・かでむくうらへゆる本のまれほし・も風し
あくしもれんぐかにうきの手の冬モ詠

差して・各酒の文集よ入るも・ハ明麻也園
雅の篇がて・ひせりして・秋波わざれぬれく
莊周とやまとよりとや・とてこり一日ぬ
のゆ・あせれいのち・力と・なまくたとけ
よ・先生もりゑみて・よ・ら・ひまセラ・すと
鶴もとよ・らかとて・うれする竹の林・むろ
河・うら・との林や・まゆり・と・漸音字・中の万
往よや・と・う・と・と・と・と・と・と・と・
立われ行用と・元と・れ・石・い・と・と・と・と・
船と・と・と・と・と・と・と・と・と・と・と・と・と・

奉納芭廟詩歌序

同

かく絶へとほふ。かくもあまとねどふ。むきの
御代のそとわきあらう。あま西保くめのさうせあ
りて。その天満宮を齋といひ。奉ゆ。かくじ
る。かくかられの瀬もとまくらさんと。おはよ
れと。伊勢とのりまくもとて。かく。かくもむくふ
やなせば。かく。りくま何の理本。かく
かみよぢぬ。きよと歌よ。かくして。かく
えに。今と。あくすうて。らいたずれ。音乃比
絶。一樂のかんと。うみ。ゆす。一家の風とを。

えれあまみにむかひ。神のやくいの。寝かひゆて。
ゆふ。その秋葉月十五。うそ。やの詩。かく
は。花房社。よまとて。かく。とく。かく。月
のうとほどて。ゆ。あくよ。よ。う。ゆ。かく。十五首。
とく。かく。う。ゆ。かく。ゆ。ま。と。ま。月の号。
かく。ゆ。生。十五。と。月。く。月光宮の法。よ。た
ま。い。く。と。ま。と。ま。の。は。う。ゆ。かく。月の。ほ
う。ゆ。かく。この秋。ぬ。月。ゆ。い。み。ふ。の。ま。有
て。知。の。地。と。ま。う。ゆ。ま。不。か。ん。神。の。先。く
み。の。ま。う。ゆ。か。ま。の。こ。か。れ。と。葉。と。ま。よ。く
う。ゆ。か。く。と。ま。と。ま。の。ま。う。ゆ。か。く。と。ゆ。と。

矣。持ち置のうをみまへば、まうせられりよ
はんとと思ふから、あれとふにまく。みなら
うむだもあらず。うし木れゆていねくらう
家のじくへぐくとくゆ。わ哥のじがくくすて
くわくさくまえとくろんすと。まうとくま
すま

鞍源光園詩歌序

同

ふく一西保三角の春。かきみてはく雲井丸
厚やわきゆうきい。ト幽子せきらると
故郷よかゆくすすり。りくはげ十年うち

都とままで。筆書ひよりて。修よ水石の源
黄門よに。うとうと。まき御。まくまく。
がくまくと。いまをゆこくすもく。うじゆくと見くと
りゆくかきいのうのう徒方。それとしはく。女里れ
くらと。うそをうと。の小城。おほま。ま年々
おほり。かくと。かくと。はくはく。居く
うつ。うつ。まくわく。めくわく。あく見く
とゆかことく。かくくわく。かくくわく。あく見く
りくわく。中將の看さん。うすと。このうすゆかく。お
うつて。うすと。うすと。何は右よとよ。お裏。朝

名にとどかず。とくに、
哥の道へもはやまて。我よりは人にすら半ば
やがて。わざとこぼれいへばうがむをあらむ
やういとせきと。りんとかり角をうなだる
走れかど。しれ本よそり牛しりせとはうかよ
じゆゆのゆゑと。とけとあまうに。かまくらんじよ
ゆゑのゆゑと。とけとあまうに。かまくらんじよ
生と死とをあまう。わざと波素宣れ不死の葉と
と死とをあまう。わざと波素宣れ不死の葉と
うかうかよ。かよのくわすかうと。わざとこの本と
かくせ。かくゆのくわすかうと。わざとこの本と

うかうかよ。かくせ。かくゆのくわすかうと。
先づねと。鳴くよかくよかくよかくよかくよ
とくに。うは。魯奐のとくとかくよ。かくよ
は。是はくよかくよかくよかくよかくよかくよ
りを有きんかてあり。かくよかくよかくよ
必多みに。詩はす。ひと日ひととくよかくよ
かくよかくよ。奉神。朱几。あれわ言せをせり
れどかと。あや。むかふ。鳥の跡。さよに
ちの葉。は。とよ嫋麗。とよ嫋麗。とよ嫋麗
わす。わす。わす。わす。わす。わす。わす。

御の猪尾とあせんた。安時しもんもてこと心れ。
その事は、う夏とやうされひむかれ事生じま
くと思ひもはう。告ゆずれ。とくもひよか
ゆくくくく。まく思ひもはくまに。作
ふ草の音はう。枯野の雲はう。りかわる閑
の中しらかく。おこりひのまをゆ。比し夜やと、
こ衣やうすに。わきやくもま情の流れ。河と海。
さくさくとゆ。其の音素いじゆはゆと雙ぐく海
やゆくとゆ。圓の海くとゆき。風くとゆくじゆ
。一。首くはくもの形をまつをばゆくとゆくと
ゆく。里のやよくせと。雲とゆく。おとづるの風くと

猪くあくねく。りぬりきの糸のゆとはうくゆ
とくくくとく。ゆくと。うくれく。あく
かくはくく。ねく。かくくく。やもく。うく
えよちよせぬのゆりく。うれゆりく。まくは奇と
ゆく。うく。うく。うく。うく。うく。うく。うく。
うく。うく。うく。うく。うく。うく。うく。

身在江城天府居

處君秘閣得相計

又

僦舍養病徒屏居

許君不厭青囊舊

牛牕一枕黑誦餘
舊物猶藏數軸書

又

隔々一月よりより行う事
かくされ、細々、疆りし
ゆまりとて、待りをとて、迎え
月日を、ほの、おほかす。
講武有餘力
書閑千里画
逐冰交初淡
何時頃皂蓋

學文加琢磨
衣帶、團和
禦寒情更多
品藻大体歎

又

同

長月のうち初度の行わる夕、もみまほとお
さんへおひる、河やまた水戻れ源羽林のゆき
せりとむらむだ。らむにゆり、夏あゆまとむだ。
けりとも、何の鳥が立ゆくか、をな
せこゆくがゆくよ。やと鳥として思ひ出かし
りまく。育のじもと、波冰真うようけいり、ま
まのつ花と池の西、もくとみあせは、風うねま
のとあらうたうて、とくとくを林すにむきとく
竹と中流すもれか、春鴨の、かかととの、まとと
脇ぬまく、ゆくかすり。それも小蘆山すむらのよ
うく。それも田畠の早苗、まよもく、さりのと。

秋種をすと思ひぬ。木屋より水を汲むが處で
暑とりぬるもしく。ゆうと宿ちこめはて橋と
わく。すみだき岩山をかゝりてまよふと
けくとまれて白光山はやと氣りて。幸の聲
をもあさう。かくたゞくのりぬすらうづく
をもいとむをゆておはしてのりけん。寢や
かまくと。の蓋うづれにそまうり何うれある
み波のませくゆきを。魚はりす。まゆのあ
きする待ての食しらわり。すばとのしらもく
一もあし。ドモ先はまへば。いかくと。ナセ
かほんじくらに。一とて。一首の奇とは。うづく

あくの君。かくは。此は。まき。せか。と。袖
言が。江夏の日。かく。かく。かく。と。金しづれ
く。あらわれぬ。かり。一。海。かく。と。金しづれ
は。やまと。袖。かく。と。と。ひと。かく。あらわ
かく。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

宴望水亭追舊事 清淡憶昔酒行頌
自今羅奈音書步一別秦胡萬里身

又

亭堠置郵傳號令 恩波流入小泉水

又

唯患僑居無寸暇 人言禾邑和歌德

又

五十餘篇珠萬顆

如君佳句不辭頻

飯來何厭寄書頻 徒愧虛名惹此身

世營未肯及酬咏

糲線小才慙愧身

又

別來數月易衰葛 曷到初驚光景頻
一器珍殼遠方賜 忽和醇酒助吟身

又

うひぎやそのひきのりつまはれ
うひよゆくはる。雲ののをひき
故のうともやはくらひひく
地のひかくもくらひくとひ
うひう葉の秋ひくひん夜ひく
うひとひゆくめく時ひく

ちあとナ一早苗や今^ハ色はもし
書こうと康^トと延^モナリル來^シ
夜^トもかく^シまくらを洗^フもや
それゆきちばう洋^モ御^モ

九月十三夜和歌序

同

いあや長月の三月の月^ノ人のゆう^トも^アねりも^アま
永日^ノやほらむすと^アの^アせんと^アも^アく^シる
西野上人^ノ葉^ノ上^シ音^ノお^レて^シ光^トと^シ風^トと^シ風^ト
壬生^ノ二^ツみの原^ノよ^シて^シ川^ノ浪^ノ音^ノ怪^シ音^ノ望^マる
その下^ノれふと^シの葉^ノか^シく^シよ^シと^シ風^トむ^シり^ムて^シ

うや夏原良益^トと^シ好^シり^シ・我^ヲと^シわ^タと^シす
ちにと^シと^シと^シ年^ノ々^ノ・あ^リと^シ音^ノと^シす
今^ハれ月見^シと^シ葉^シと^シ市^ノや^シら^シか^シと^シ
あ^シと^シの^シ蘭若^カり^シと^シ葉^シと^シ葉^シと^シも^シと^シ
んと^シじ^シの^シ妻宿^ノり^シと^シ妻宿^ノと^シ妻宿^ノと^シ妻宿^ノ
法師^カと^シも^シと^シも^シと^シも^シと^シも^シと^シも^シと^シも^シ
か^シれ^シ雲^シ教^シと^シ・人^シ身^シと^シ河^シと^シ身^シと^シ元^シ
あ^シ・天^シと^シも^シと^シと^シと^シと^シと^シと^シと^シと^シと^シと^シ
う^シの^シ翁^ノと^シ吉^シの^シ翁^ノと^シ吉^シの^シ翁^ノと^シ吉^シの^シ
う^シの^シ翁^ノと^シ吉^シの^シ翁^ノと^シ吉^シの^シ翁^ノと^シ吉^シの^シ
う^シの^シ翁^ノと^シ吉^シの^シ翁^ノと^シ吉^シの^シ翁^ノと^シ吉^シの^シ

雨雲半日も晴れ秋しりぬれば
木のるの月と人かどらむ
と有きよ義わえども

待りどもといへ延の木の月見

うう月をまかせられ
とくらうなみあきまみがんきり入ねらる
ゆきよゆゑひくらむわくと古今の不いものほ
のいおうう。狂歌一月の間よひとて。ゆきひ十津
三のむとくとて。詩よ奇よにあくよみくよめ、そと
ゆきよ陽居の袖よひとむくよりしよきいの麿生よ
活きかぬ。あくねかくよみゆきよ夜よみよ夜よと喜ばれ

か地くちてもす。やしめはゆくゆくあり。魂游の交
うくまく。かよよみ河もいて。とかくらむは
ちかくらりけ。今もおふれつま。やわらしゆ
ゆくえきりよ入よす。にぎわてる鳥達れ聲
すわくしめり。月に入らじすよ木葉落して。おの
うきよめらりれぬりとしこそく。うきよ年よ
西保三とをの秋にまよひ。見そつて二夜の月よ
まきゆれ

かたはきや月の樹とだよの月
葉はれにゆくにゆくよきわ

寧府傷心首廟詩

禁宸憶遠拾遺詞

冷光澄徹休叢底

宿蝶尚依蘿葛枝

寄月露

流光もくはれぬと月れ先りゆ
わけやく夜の音もとゆ

寄月露

うねかにせばうみわす姫人を
ういや月のすみよめ
月もきく老いたひととのことの素れ、夜のすみ
きほどりくれば見るをなう。たゞく秋しゆるまの
物語のねのよまきとひくふ人のうみよめたと
もしむかへよせりんゆ

老ぬうり絆を失ひりあは

月うれのものゆ

この歌令よ通復胡だうてえほへゆく、俄々
禁事のあきより有とし。あれはるこむ主處と小
遺憾ハシナしゆれど、かの山を、浦シマへ
獨のうへ道よどてむじかくと。かの山を、
うへてむじかくと。かの山を、かは
中將の洋うり

雲の上の月、ナモトモトカはぬ
ナリテノサルの音を思ふ

五

夕見ぬるあらうや雲れ上方
月よふしれむとせひなまし

日光山法華八講記

同

はいとどりめ。その月の日 東照
権現三十三面の神是日向ふれましめや。天未ゆき
むれの、うれは日光の宮をへて、八達とこむす
みをのづく。うて、前院政殿下とくめます。とを
人のかうりうらはす。うは寺持院賜左衛門の
追薦の例をさし。院の御勅書が、足利門堂大納言
の主と相あつた。給ひて、室のあてを海のね。

はまむらくとくわせ。かにじの御ふくまぢ。
かうりくねとくわく。拂口もくすよく。環れ
くわくらむとく。うれや若蘭うむむとくよ
け。金んとくの葉。うそと。うそ。うそ
歩くは。うそと人かみよかとよわうて。木雲は
麻えくとくとく。うかの驛尾のりく。金れ。手
里とくとく。うかとく。うかとく。山林
とく。うかとく。うかとく。うかとく。うかとく。
うかとく。驛尾の経方が。うかとく。うかとく。うかとく。
うかとく。うかとく。うかとく。うかとく。うかとく。うかとく。
うかとく。うかとく。うかとく。うかとく。うかとく。うかとく。

三月のと申すやうは玉の玉斐山よりまほる
とのれぬうらわ益不ともく。口ともあらかじめもり
ふと葉・うるし・シリルとよしつ。とくと山川・とくと
満願権現の地よ。補陀落山と名は・とくと勝造
上人のゆき半二夜よ。初て寺といとす。峰と
神宮精舍と。或因に大阪の建立をよどみまど
く。とくと跡鍊り書は是。とくと勝造弘に年中
上人経持のち。補陀落山記。とくとゆゑをす。況
や庵尾日光ハ透玲々鏡り筆と。滿願中後の
あ寺ハ。とく蓮敷院。と記ひ。とや。志のひゆにか
この縁起とか。侍。満願権現の因縁と。有字

の中將朝日姫の事。仲元とひそひそもむよとゆゑ
を爲ひのう。元慶文治のゆよとよまで。右大將朝日姫
并成寄附せむ。東鑑よ。と。仲元。契
の事。かと。を。い。を。こ。か。れ。ゆ。と。され。は。ゆ
り。も。と。今。み。と。う。の。と。お。と。造。す。ゆ。と
み。有。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

松枝生もよどて。か辱のことを情雲とぞよ。とぞやね
まよひ所のため。まだと見てうかく。よきいじん。ほと
りや。これらは石からゆくのあくと。石れむをす
ゆ。母額川を院す。伊佐木に。時の農
業とがや。税をもとのぼる。二玉門より。ぬ。金のも。吾
せ入へ。東の三の御藏。う。ゆもと。と。左の集金の
不とも。西の御藏。う。う。と。諸家のもの。く。所と
上庭組の丸と。う。二の間。や。役替と。も。たと。こ。
通す所といふ。二のた。右。の。階。は。の。う。で
西より地堂。う。む。う。の。た。右。よ。鐘鼓の棲。う。との
不朝鮮圓。う。ま。華鯨。ど。わ。り。こ。ゆ。に。上耳

刻め。木垣。う。泥。ら。を。や。う。か。う。む。う。廣。の。雪。と。陵。て。朝
夕。の。泥。す。と。す。い。ま。う。し。泥。壇。と。諸。の。集。金。の。よ
と。ん。市。よ。ま。の。灯。籠。の。曉。陳。圓。う。ま。う。と。か。の。魯
茶。羅。供。と。か。う。と。と。う。に。か。金。と。か。く。も。是。は
之。く。開。烟。門。よ。入。ね。び。額。川。院。の。伊。門。や。居。を。延
く。書。あ。経。ま。と。ぞ。じ。よ。う。人。に。被。ば。ト。ー。は。る。
せ。の。え。く。う。る。廻。廊。し。廻。廊。と。た。右。の。か。く。と。と。
湯。羅。の。中。央。よ。か。く。と。と。か。く。と。と。か。く。と。と。
ゆ。拜。殿。よ。の。り。よ。と。と。か。く。と。と。か。く。と。と。
ゆ。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

先妙法院の主とぞ・殿下とぞ・も忠光の二卿・お
くとのわせとし・堂主を子四人養ふれむよして・さう
れと李雅朝をひき出せり半身をて傍人とひきわざ
金をよひす・かうのりへての席力によとえ・西と
階のあゆて・逆え度有るとかれつ・底付度をせにこ
とくうて・階とトロリと退る・侍・大臣の本樂が
賀殿胡馬義太平樂を深樂度主納義刑ニヒ也.
して八のととらうどのかりうて・そとかづくはまが
うん半とやまとかりとの・まことあまいりん御をな
うめ・不毛まれる世ノ都ハラレ・もあくはれんじ.
いもやとの・豪の多よからぬる樂の水に絶て文く

すすまよある城・併すうとうれ夏草の度思・さす
今上の不自と・と有・和のう・流あ・いひ・も立
え・は・かう・うに沿法の場よ・あからず・まけ
半・り・わからぬきれえ・さ・し・ゆ・じ・よ・せと
だ・さ・大・もの・も・流・さ・け・や・も・う・よ・
よ・ゆ・き・う・て・河・さ・き・や・も・う・よ・
あ・う・の・夏・青・は・う・も・う・よ・
は・府・ま・か・う・も・う・サ・し・真・觀・政・要・と・よ・ゆ・み・あ
く・き・だ・ま・や・さ・り・か・ま・か・ト・ト・ト・
並・じ・逆・録

諸節集をも・さうよがへじむかとあすへかを
とのか・か・おはしたれも・とほもれもしも

キモ・とい・そてあ・りか・いぬ

十七日・大權觀の奉れと・各多々くの・
石れ鳥居のから・けちういて・諸家の見ゆ乃
不と・昆沙門堂大僧正・海人・りまと・奥・しら
あ・う・う・げ・林木無士の・さ・う・し・と・の
せぬの・く・き・ゆ・く・う・と・ぬ・云・教・あ・と・の・を・續・
そのう・神樂三社・あ・大權觀・中・日光權觀・向
とか・山王權觀・と・や・社・神人・づ・し・に・

一記載句字

承・承・半・八・月・吉・法・華・寺・大・龜・三・月・四・日・也・
り・あ・日・の・光・山・の・名・と・あ・う・か・ば・か・く・あ・く・
人・佛・像・未・よ・せ・う・ま・く・と・そ・の・も・く・か・や・う・見
た・・將・軍・家・し・神・樂・所・よ・れ・く・す・く・大・行・通
子・の・ま・く・の・人・教・も・こ・し・給・ん・禮・し・ゆ・け
と・・玄・鑑・列・主・侍・と・行・道・と・く・て・諸・は・拜・鑑・
夜・ま・う・時・晏・丸・し・旅・と・浦・と・尾・張・大・納・云・紀・伊
大・納・云・水・戸・中・納・云・越・後・少・將・南・の・だ・よ・は・き・う・そ
い・う・門・執・権・の・く・ソ・ル・と・の・養・子・よ・候・せ・り・う・そ
今・出・門・大・納・云・度・と・主・て・以・手・と・ま・く・左・傍・達・義
す・教・法・觀・主・三・月・一・日・十・立・よ・か・せ・給・御・妻・い・と・も・

凡くの如きハソシヨシキト。柳言叶山神ハ志モニ
ミレシ益ヒト。又

十九日合行、豈葉羅供・大樹下れ御焉丸。ヨリ
ノリ。又。又。又。又。又。又。又。又。又。又。又。又。
察獅子善薩伶人とも。も。也。也。也。也。也。也。
ハ樂也。の丸。ナリ。又。又。又。又。又。又。又。又。
も。と。う。れ。よ。か。桂。堂。の。美。子。不。と。け。ル。ハ。安。よ。丸。ナ。ル。
ま。よ。成。一。桃。李。菴。天。示。援。頭。還。城。示。或。少。蝶。
の。神。ナ。無。ト。モ。ク。レ。シ。或。迦。陵。頻。の。翅。云。波。切。カ。
ハ。モ。ミ。ナ。モ。兩。よ。シ。シ。ラ。レ。テ。翠。の。丸。

と。と。と。と。と。と。と。と。

廿一日ハ三摩耶戒の灌頂神前モテ行シ。以教授
竟。先法觀王。沙更者。乞教法觀王。大阿闍梨。ハ昆沙
門堂大僧正也。穿樂。ハ採桑老。新蘇覩。洱洲林
院。歩越樂。稻梓也。

姑頃の日。證。象。ハ。三。海。大。絕。ム。ト。モ。法。津。ト。モ。モ。モ。
緹。素。名。奉。幣。ハ。シ。一。閔。札。シ。數。下。ハ。仰。仰。仰。仰。
リ。リ。ミ。セ。日。ハ。吉。日。リ。ト。シ。何。日。か。し。ね。モ。モ。モ。モ。
ト。シ。の。ル。シ。ハ。あ。く。年。ハ。リ。ト。シ。母。次。モ。ト。シ。モ。モ。
廿四日。法華萬部經讀誦の傍。卒。高。口。ト。モ。モ。
廿六日。神事の御能。行。ト。モ。ヤ。觀。世。今。齋。カ。

云うかくね着後、教法はてはと。苗穂のち元よ。
むすめ。是しらむから引モとさしも。類やんそり。
かくうり法會に敵がり行へは。されんとくよ
りかうりか。大樹のゆゑ多じゆきうかとども。
まきまき。是まく一日二日ともゆぢわがく。せ
れて若所。所と見さんと強多うれし。老病の人
をみゆく。もゆく。尾庵庵光寺とかひて。
あ見ゆくか。とのう。う年ハ生れども。つ
あこれもいのどもいはわうかうひつて。苦の
片桐半兵衛とぞも。や

山中より君也かうれとぞの因縁

むすめ。御もとくに御法よ
高きにむづばうにゆくと
神の宮店からうじくまに
ゆくやとのゆきめれわいよう
わいよのんきのちく雪
いづくまに雪舞れ。竜しよまく
くよ見くあくゆくまの
くよみとれ松くまくじゆくみく
もむくまくじよくやまくまく
氏のかまくばしのゆまに

やはるも見ゆとはふ要まれ
ざとのくは雲いりゆ
九重やとのゆせやか（瀬の名）
もゆとすゆく雲のうへ
いもえく波うどくとくとくの
山うねりの流のわたり
かくらかくらくらくらくらくらく
人のまきゆさくさくま葉與

仙洞御文紙記

同

めぬや人のそとくう風小野薪うゆうと

かと今りゆゆくらうきく（音）かとゆく
かと仙曾れ御ゆんてれゆをう。そのあんゆ
いとゆいお咲わくまく。深よやとく雲煙ゆ
あくい。中うそく不くら首。きもふととかせ
まくはうまたとく家とどもとよーさん。とねく
くまく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。
はまく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。
ゆ御法師。父ゆきとし。母法師。かたな翁尉憲
清して。鳥羽院の下に西すく。か族の核者ゆ
うく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。
にゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。

多喜柳の系れどもとほる系譜の源向
ちやうすまくそらめ生きあむ。りうあ。
ゆまと秋よしを一源く。はくの通く。妙
もくのりん。左院の御時や。かくのゆき。今
上よりて。四代の帝よはく。ゆきよしたむく。ゆ
えんにふたとどう。にはゆれどもすかよどみ。
一曰。とこあむりが。りんく今下れ。五位とねまで。
くやとのうみと接ぎ。あ。若狭とつをと。秋舞と
ゆく。あしゆのあく。ひあく。あく。君の
御事よあく。時つかひ。道す。くさく行方
のほとす。それ等を以て。かくきよめや。かる

うに葉流の村を。お。れりん。とく。み
まよ秋は鷺の川よ流を。ゆく。と感。り
へた。あく。と。の。川。其を。ゆく。と。と。春
の通。力。も。と。あ。か。り。う。う。の。ま。ら。か。川。薄。と。ゆ
き。う。み。れ。お。そ。え。れ。と。川。葉記。せ。く。ば
ま。と。が。い。よ。う。ゆ。ゆ。あ。ん。そこは。ま
う。は。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。せ。人の。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ
半。り。そ。か。ハ。と。と。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ
せ。か。く。と。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ
れ。か。え。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。

八瀬のこと葉

同

大枝の浦よとのおに。うすきよ。野菜の何。ひら
いぬく。草。うまで。八瀬の。角。陽り。よの。ほ。う。あ
せ。う。か。ひ。て。ハ。手。い。は。い。は。う。す。と。と。と。ま。ら。を。一
字。お。の。探。え。あ。う。て。日。母。よ。春。和。く。う。し
へ。う。時。か。こ。よ。う。ま。き。へ。む。と。い。二。月。風。せ。り。う。そ。れ
く。ね。風。く。う。め。そ。の。み。ち。う。れ。く。せ。みて。奇。松。と。が
う。波。あ。う。う。を。う。而。と。歌。く。し。見。と。か。う。ゆ。く。す
わ。ま。か。ま。は。う。じ。の。う。山。森。の。つ。る。ば。か。く。ま。く。と。

八瀬

若寄からまくくさん。け。宿。と。後。捨。達。や。大。原。行
く。か。く。よ。立。さ。し。と。も。せ。と。城。う。わ。や。め。を。ち。り。
と。シ。う。古。う。思。い。わ。

か。て。見。ん。と。め。り。か。か。れ。ね。よ
か。と。よ。オ。セ。ま。り。見。せ。れ。室。か。
ま。く。や。か。八。瀬。の。み。山。よ。ひ。よ。又
め。も。出。で。し。ま。く。一。方。こ。と

大原

山。ハ。雪。れ。ま。く。ひ。て。そ。で。く。し。か。く。ふ。泉。が。新。せ。わ。井。死。

古事記を不思議に思ひて、尋ねて麻衣のことを
きく。もしもあらへり。ひるや川の急度法原から
いさみのれあすれとまつた。桂川今も有さんと思ふ
とことゆ。室の市葉万葉よもやめ。西引
寂れ十首の歌言うそ。ぬふとし山峯の画新成
り得し見えをせとす。乞と恩よ今文清り
へりや筋と側の股ぬくあくとがくと

身のいやかくやかくわく

清加井水

猩馬樂よしのとせす。鳥の音もかく

とくれん。思ひもあらんよほりて。又殿
秋と竹へ出とやる。とく一魚りて竟あ。お
いぬれぬよ思ひせらる

うすん日教あはせく。育み
まきくせ井の水のみをも

鵠清冰

素志良運の二法師うちの月へ通とまうとある
うちくくよけられてあつて。江浦の山夏に志
もとすと。氷室よもゆく浦くまで。みめ
さがう暑とらう中あらうとさうはる(アレ)

月よす暖の水などと

ひとはぬ神りも涼一ふ

小野

山川炭。山車。山田。早苗。
まきぬ。室。御花。雪の難。みゆ。そそり
きんじ。まゆ。ほ。ほ。細。ひ。くら。うる。御花
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

小野山。山田。や。わ。り。御花の
雪。ゆ。み。ら。し。あ。れ。か。う。か
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

豊原遊覽記

同

育十八月元。い。う。朝。す。暮。わ。た。ま。和。童。訪
朱。れ。威。元。う。う。や。う。て。け。し。は。相。よ。よ
か。う。ね。ゆ。う。これに。う。れ。敷。部。よ。う。と。そ。は。う
い。そ。の。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
山。旅。よ。う。水。の。ほ。う。山。旅。こ。う。ゆ。ち。れ。と。と。空。空
よ。晴。石。の。浦。舟。き。う。て。ま。の。宿。都。と。う。て。ま。ゆ
も。ゆ。と。廬。室。藏。と。や。う。ま。う。て。旅。い。え。と
よ。ま。し。と。毛。毛。う。二。キ。と。せ。う。と。ひ。と。ゆ。ん。周。旅。は。れ。
皆。人。帝。有。の。思。い。と。か。と。と。と。と。と。と。と。と。
い。理。じ。う。う。お。ち。か。ま。と。う。め。れ。り。拾。達。少。年
と。と。と。と。と。と。と。と。

人をもく複りされどもとて夏の夜空にし
あらへるよす。神かく野に出たり。江うち人れむ
きし。夏至ゆゑに、りきはりす。小山の木乃
み。りかうす。苗の色よがして、じくと石庭
ちゆゆ也。涼。山うかく。夜は月うやけ。要
きもくときし。北扇の風は食うて、りかうじ
巣とさうよしもく。度はよしゆつてお
本法もれとく。池のゆくやくらきいさんをり
ゆくかくとく。とくらひとく。りかうとく
御。りかうぬ闇魔王俱生神かく。安きよき

堂よき。乞はつわてなどく。済きよしれとく。聖
へあり。むくのきに法師河。それとむらく。何かん
ともかに事として。ゆとり。もすかと。もす
尼。かくくある。義。河かまゆきよの。もとを
せ。敷うきよ。身。ゆき。せ。かはく。もとを
拓。子。庭。うゆ。半。日。合。セ。ら。し。く。お。う。と。く。う
え。き。天。地。寺。入。く。お。院。城。見。侍。く。庭。よ
大。ゆ。岩。り。松。ゆ。苦。い。て。と。の。は。う。り。假。山。
り。と。く。座。右。よ。坐。雲。とか。す。歸。す。れ。袖。り。く。又。よ
歸。袖。と。く。三。字。れ。類。ゆ。何。比。唐。並。ゆ。葉。先。か

尚の母守の往信とを以及ばず。大井川にて成士もは
りあり。主をもやよもとある事なし。はま。是
系活れ人の逍遙ともあし。りあり山がかりす
も。もとくにこね。童心も活かぬとはさしく
あり。より。佛の御寺とけむすとやりん。と悪
きとく。實も古代の也と見る。人をまくうえく
うちぬけ。もじ。清よ頻都盧と云ひ。亥よ
集三人膳の事。四年もかとす。もとと
よ紙とぞねく。年やい時か。主故活あらぬ。
因まれ鼻まし苦。し不とき。てくとから。とせ
して又我おほかれ。やまい三事。金なるを因じ

くといらへ。税とこかず。がて主ゆ。は。川をみよ
け。もまかく。もそ椎の葉よ。と。一。岁。酒と
飯。醉。り。て。の。い。い。い。まき。國。雅。の。逍。じ。か。く
あ。ゆ。い。と。り。く。く。く。き。む。れ。し。主。を。よ。出。も。ち
あ。す。貞。童。四。立。人。ま。わ。う。う。き。ま。に。例。の。た。の。と。旅。や
も。も。そ。を。ほ。ま。と。ん。じ。か。よ。ど。り。く。く。有。り。し
う。れ。と。そ。そ。そ。そ。星。經。く。も。活。ん。か。れ。と。小。經。く。う。出。く
も。見。よ。み。て。う。る。君。ほ。し。大。井。川。
り。よ。せ。か。や。し。活。を。わ。い。ゆ。
も。も。ん。拾。達。の。革。と。か。で。つ。と。よ。や。と。そ。も。入。な。先。
け。む。う。か。や。う。の。毛。と。そ。く。人。も。す。う。に。お。く。一。ゆ。ゆ。

りしもかくせりてせしゆまにれどもあらで
ひまわきまへん奴原からひては行こ事へはま
ふと舌うらましむだ。かれはの宿うへまへる
のとどくよ。ふとももかいてひまよなりを。夏童
毛毛うれしむてうす野原兵いろの弓よりうら
てゆれりりしり。あらもかうらうもとれりとく
はがく庭行うるよごわく泡しがく。ゆく笛の
うさう。不うへき機下しよくと念はは。夏か
おれ細き流まとよもく。ひきまじへ西と流
ひきくした。おゆく。うちあく。腰庵よ
むくね。軋う山巒よ阿あいひと入ぬけ山。妙光寺の

内府あらとくれ。菟裘れぢし笑ひ。すすみ絶え
えく。さうりと。ゆくいれく。かくはくじく送
まみにさく。じうじうにゆく。かくまし。とくじ見
はゆまんれうくみまく。さで。ゆく風流城をく。
まかく。景いくと。まく。まく。まく。まく。まく。
一。まよ一樓十步。一閣と。がくまく。いよ。まくと
思ひ。まよ。まよ。まよ。まよ。まよ。まよ。まよ
あく。しかく。元と。と。かく。杜鵑と。あく。月よのく
うれ。雪よ。を。ぬ。いわゆ。との樂みよて。要。お
かく。まよ。むか。むか。むか。むか。むか。むか。むか。
舞殿かくえしよ。浦くれま。まく。かく。和歌の音を

わらひんゆうとと見合せ。そよ手てしの妙先輩が
さう。ほくは詰めやうがふるくもみく。下はまう
かく水底ア。山のうへは法灯山所の庄裡石とす
りま。是れのむきまうてくれ。この西より
りて聲あるゆ行。もくちあ不智夜の月見行。
そふねくとぬくは扇扇ふくあうて。まよとまが
まくらう。うくよ。かひの月巻と綻びりいと見
事。おと思へ出ア

山の陽ノ入日れ。さくまにまく
にはかくとも月。あく
せじく。うよ。庭の邊の枝々と葉々と見ゆ。

若狭をきぬと見まく。うのみやせんと
えぬねの下通もみり。はよ。月まくらてゆくと
ひとをゆく。いはこかう。鳥のうり四つとしだれ
て。時亦く。あ。かんく。うの都とれど。むくと
きれう。きとく。きいとる。実やば鳥。はなこと
はう。數とはくと。うわきに。蟲。はな。かく
數多きとよとのうや。りく。田。あよと。壁
半。書。は。き。う。よ。橋先生。れ。だ。と。汚
けん。い。い。か。う。い。か。う。と。く。汚。れ。ね。ま。に。見。出。は。居
わきう。よ。や。い。れ。と。く。汚。れ。ね。ま。に。見。出。は。居

はれ月の日と夜暮よはせまぬ

いふかへこむらしきれまは

まくわを筆に経夜刀月

成元錄別記

同

五月西乃づれる紬えどる奈良ノ御のくさまひ
川ノ糸の音ノほづりすみゆきうきりよ裏の
ト草をそぞりて蟲の音とも秋あひ
水いとほく流れたりつゝとくは下下下下下下下下
音のやうりすま。音や何ぞとも夜よ入でりん
あはれうとてこま。即日書きをねま。これ

くみかは水草がれ新とまくよゑ來。福井
何ふもすま。まくとどのつちもとよかたゆ
ト服敷とじらてしりうきを者けり。是す経
本作よおひ事じゆくもくはりては。是すをとじ
半りてきをかくわし人むくはりては。是すをとじ
元々。いふいよりんはしまと昔よ。胸け
札くじととく立高くまう道とか。水透の事と
之を

捨遺

川木よそく一室のいあま

いふ。浮く氣あつま

和室

数日見て水のえりは河や
といふてゐる。まます

秘書

おとねりみて一質量の定めと
水のりみるにかきとくに
すとほくに、省邊くらゆみ。じつよと
まきく。結局もれふいづらやとえど。空す肉す
入ぬ。かくのぬまに蓋す。おおむかく。うる
り。今ぬくとも三量の曲ようすにて
う。夜半の達もあり。急に歩かいきらわぬむ。

とと。何牛のひととやう。鹿人方むれ。よほきう
き。あやせじよ葉門の御よしめ。板あらは湯園と
す。うとう。故人のかうん事と思ふ。ゆうか
ぢわい

拾遺

いとよ。ゆゑにあよ有ゆと
今れ別とあくすとくら

和室

別よく。がくわいみん生あか
人の食はぬ。あらわら

秘書

はよせん人のひがみ、夜の
りくとゆきてゆき、
かくらうると耳よこし、ゆさんとすく人や
の通りへやまくこゑ

関東海道詠

源通村

元和八年十一月廿日、俄ノ初とまく 東関下向せ
よ・家廻法師送り

離別急、情苦難、官梅不發待君還、
高才正議類相聚、吟伴扶桑茅山、
出門のわがまゝ、花底向の顔、むろとわば

わざめあひゆまもま、福され
えりこし日のうちれの山
用く書せんにゆく侍
かこちる、美とらうりと初の心
いふか、これ道ソモトとあ
方音うれはるよ、近庸山と越と、驛路詮々夜過
山とみゆ山里
そぞうにこれしまやけのまか
三番波たゞく、おもあこゑ
まほのゆやく

はよせん人のひがみ、夜の
りくとゆきてゆき、
かくらうると耳よこし、ゆさんとすく人や
の通りへやまくこゑ

江の潮にせりけのよ哉

毎日浮くよとゆきよ。浪のあはれて。支へ暖
かまゆくらひよみ。夜とかげて
並流すより又夜まれ月守

まみくらひ。程よ生もむりて。あら明けに萬事のよと
見附

薄はるる雪うすやゆの初
きそとの雪を拂ふ夜半。那
青月二日三更よとゆくね。ふくらひ伊豆國とと先年
予よとゆくや。母の病よとゆく。まよほ。さよ
がれ源氏の君。海よます神のよとゆくからとば

ゆく思ひて。わくとくわく半りくふのよとゆく初
念一詩

海よまた神かととく。波乃
うれのみをとく人とゆく。先

山原とあらて。浦乃ととく。山河うなが
ほととく。かのうりよとゆく。おうとゆく。故入道中
綱云度の思ひゆく。ゆく。波のとと小舟。うねり
河の見事はく。かととく。海の見事はく
思ひゆく

かく人いふ。やはやかく。波
水うねりすとゆく。おのとく。舟

ひきいしたとあるじそやむにかはるま
りとくはくと人をあらん
江戸をゆく人をかづよ高さかて奇ひまちやうの

事のねづかやいりや四人十
あうてゆれどそれ
十一月江戸とあらてのりくまむ。十八日大雪の
う。梅澤とよとくはくはくとくはくはくはく
冬とくらゆ梅りはれ不え
ものとくわらはくとくを

うい小田原と角す。のとくはくはくはくはくはく
とくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく
へ。朝のりくよそくはくはくはくはくはくはく
うはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく
はくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく

若狭山とくはくはくはくはくはくはくはくはく

くられなうのとくはくはくはくはくはくはく
やくはくはくはくはくはくはくはくはくはく

はくはくはくはくはくはくはくはくはくはく

かうへとまほしゆる故に
あつてりれうはのゆゑ
夜林の宿

吾とよはねのくし、元の波
よし、いとゆきの、枝
旅夜中山とくはる。たゞかくらむし、とどけし
はまむだにわむんす。見
きゆくはれりのゆ山
古六日とか山伏教。まし雪。あゆ、あゆてなむ
りふと、ゆくと、ゆくと、ゆくと

辞たましあたりむちてゆか山

雪のまほくよゆり、せむ
かむらとくのよひ、みよ見、雪
よし、わゆる、まく雪

物の相ふと、そぞと、和歌序

同

江文通、宋真とて神と、あまと、とて、漫と
ぬくし。卿の列も心清うととんとも。藩安に、渡
魚して舟と、な。遺言耳も、亡ば悼じ。真表
経源うて、対。対上布おふり、一月の初に、
然書げし。鹿のあく野の夕、薄神も、
え、厚のそよ草の朝音も、しづ思へります。

かれてくよ福取かる。西はすまゆと歌
ゆふと思ひ。神音ゆふもすまく
あはれあたまの妻か。今更やうほんじ。土
とぬるよし。かき初とつまで。相の縞の
帳とくわ。物の性とくわぬとソメ

神音もと時ぬといぬ
ゆきむせは歌く。夜半
袖の上まやかさん神音
うしろのゆきと。の素
わが心のゆきうちがまのせ
えをうけやかく

神音は見ゆ。神音はんた。新井
やまいかくとも時のまやち。
う月のゆき。英と今ハ雨
りゆき。やまとひそん
ゆき。歌くも。のれど
ゆき。もと。の木は木
ゆき。神音かくも。かくも。の
まやち。林のまやち。
ゆき。ゆき。まやち。やまとひそん
き。ゆき。ゆき。まやち。ゆき。

おもひやどりのよみぐれ
今。唯。うひかこみのひはと
見。まわらとと思ひゆ。もあ
病のまじい。よむじるにうちもあ
それす。それゆふ。がれん
まれゆ。黒ほりくやのひん
みゆげらすれやか。じゆ

友とああ和歌序

同

紫ねむり。やうらねと。ああ野のあつたあじ
う知り。ばとせよまく。ね。思はらむ。父よ弟

うみゆ。ひかへゆ。と。母故郷よゆ。山
きの尾上と。ゆて。と。の。寝れ。は。透よ。竹。綾。く。底
うして。の。あ。と。な。め。く。せ。う。と。の。身の
比。う。度。暗。起。居。向。よ。く。と。先。血。目。に。く。し
豆。顔。月。う。不。と。通。う。せ。わ。と。王。母。う。通。法。傳。
痛。難。う。御。と。ヒ。と。ヒ。と。ヒ。・。御。寢。施。う。・。湯。茶
漬。か。・。と。津。ゆ。九。月。の。あ。・。き。涯。の。生。と。謝。
生。死。の。別。は。告。・。生。あ。と。茶。煩。社。波。り。志。り
と。か。く。・。う。と。先。て。死。後。の。王。戒。角。と。う。と。容。か。く
半。波。あ。の。ま。今。け。か。と。の。じ。る。い。と。と。ほ。と。す
ま。朝。か。・。意。せ。ん。と。と。れ。い。と。と。し。く。と。と。一。京

如魚と辟る事あり。はあて。波羅若と云ふ。か
やく。もく。そと。十二篇の歌歎とは。心身。桺和歌
。我朝の詠。とて。佛神権也。是ば捨経也。世
のきゆ。四年とく。月。圓月の眞と。とよもんとく。
うし。あつ。實相の理。行。は故に行基菩薩。
真如。らせぬ諦。とか。滿誓沙門。清引母の
句。との。事。う。や。思れる。その。事。か。の。り。ふ。
乃。あ。れ。よ。む。此。縉。語。の。あ。や。ま。と。む。う。で。
瀆。佛。宗。の。縁。と。か。り。り。ん。と。わ。ん
か。す。て。母。の。あ。れ。ゆ。て。は。と。原
り。木。の。さ。か。ほ。い。ま。ま。き。き。

を
も。も。う。て。と。す。ま。り。い。る。法。と。え
り。の。見。ま。り。方。先。し。む。き。え
え。く。り。り。別。し。り。く。は。逃。と。
え。ぬ。水。の。あ。れ。前。中。
う。は。う。日。と。な。せ。ぐ。か。う。と。
り。う。な。多。貧。よ。經。ま。う。と。
は。け。り。金。と。う。深。の。く。れ。第。も
く。ら。は。深。し。れ。色。や。か。く。
す。と。見。一。回。一。母。別。と
ゆ。に。む。む。れ。む。行。の。赤。の。ゆ。
ま。ま。が。ぬ。證。う。河。と。く。見。り。

まで今しが後のよろ
いひまに郷の音とわざわざ達り
もそかに神乃さすと見ん
まくまくおどりむりりまく
えぞくにからくにわざくにば
五日がまくにわざくにば
う波うきくにばけくにば
浦うきくにばけくにば
あくねやまくにばけくにば
かくもさりお雲のあはくにば
法のみちくにばかりくにば

のれせば遠くにわざくにば
てまくらむくぬ月をもさん

宇治興聖禪寺記

同

城州宇縣の奥至寶林禪寺ハ・本朝書洞の初祖
道元師の子創ヒテ・宗門を續セリ・往方比ヒ
す院破壊ヒテ・またがくとくとくと・承安後
ち大江尚政胡臣らにゆき・もと・靈源勝
槩周望れはとよ・は寺の廢れある事にて・も
急再興の志とくとく・不日の經營落ス・とてモ度
セ・あつ・小併修練若當其の佛什物等紹矣せ

寔より或人告ぐべしとく。波師は自刻じとみの新作
年瓦尊^河と。是とて隨喜慶祝^也。矧^どいとま
く安^寧原作の物像と^也。希^也。今^也時^也。はくらきるに
ち候出現^也。半精舍^也。無^也隆^也。性^也美^也。こ^也。し
帝代^也。據^也。候^也。ま^也。の不^也思^也儀^也。と^也。與^也うう。あ^也の^也御^也
源^也。法^也諸^也。真^也噴^也。一^也ち^也。無^也至^也寶^也林^也。門^也。洛^也東^也。不^也御^也
の人^也。り^也。寄^也附^也。又^也先^也年^也。彩^也院^也。初^也筆^也。之^也。御^也執^也。
の源^也唐^也。ア^也。神^也。圓^也。母^也仙^也院^也。紀^也費^也。之^也。御^也執^也。
絃^也と^也り^也ま^也。うれ^也され^也。の^也。畫^也像^也繡^也佛^也。の^也も^也。い
河^也。と^也。綾^也緋^也縞^也帛^也。と^也裁^也。と^也。衆^也。五^也彩^也。施^也。す。
誠^也。龍^也田^也姬^也。の^也鷦^也。色^也深^也。も^也。纏^也女^也。の^也よ^也。と^也も^也す。

めしりやゆきちゆか。りし^也。承^也龜^也のゆ^也祕^也。と^也
と^也か^也。如^也。く^也寶^也。と^也あ^也。か^也。大^也太^也上^也天^也皇^也。宸^也毓^也。寧^也法
師^也。う^也活^也川^也。の^也秀^也。欣^也。一篇^也。と^也ト^也。も^也と^也か^也。宣^也龜^也
墨^也。と^也。か^也。唐^也。ア^也。樂^也。天^也。白^也氏^也。洛^也中^也集^也。と^也。重^也山^也。す^也。純^也藏
堂^也。よ^也移^也。と^也。記^也文^也。よ^也。頼^也。今生^也。世^也。俗^也。文^也。字^也。業^也。狂^也言^也
語^也。遇^也。と^也。傳^也。と^也。將^也朱^也。世^也。譲^也佛^也。業^也。因^也轉^也法
輪^也。の^也緣^也。と^也。せん^也し^也。うれ^也らの^也。宇^也活^也。と^也。蓋^也。和^也歌^也
源^也實^也相^也真^也如^也の^也。妙^也。也^也。流^也。和^也光^也同^也塵^也の^也應^也觀^也
河^也。と^也。是^也以^也神^也明^也佛^也陀^也音^也圓^也の^也圓^也活^也。と^也。而^也そ
も^也と^也。す^也れ^也。如^也語^也。の^也源^也。吟^也。度^也。と^也。何^也ぞ
中^也。ほ^也て^也。平^也。使^也。子^也序^也。墨^也。山^也。と^也。の^也。手^也

達磨大師昌黎川の詠歌數へよ・これより祖文よと
えんや・えんや・えんや・えんや・えんや・えんや
ソリよ流通し・世々絕ゆ・翁とより考の事
度安二の年冬十二月これ記す

枝葉拾葉集卷第三十終

